

連載



はじめの一步



第4回

乳幼児の愛着

岡光基子 Okamitsu Motoko

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科

連載3回めでは、乳幼児の精神と関係性の発達論じられたが、本稿では乳幼児の愛着、すなわちアタッチメントについて述べたい。乳幼児看護学の必要性を考えるうえで、乳幼児のアタッチメントの理解は欠くことのできないものである。ふだん、小児看護の臨床において、アタッチメントについての正しい理解や愛着理論の臨床への適用について十分に共有できているとはいえない状況があり、その一資料を示せるよう整理してみたい。

アタッチメント研究の歴史

英国出身の精神分析医である Bowlby¹⁾ は、乳幼児期に施設で育てられた少年の親との分離体験に関する研究を行ったことがきっかけとなり、マターナル・デプリベーション(maternal deprivation, 母性的養育の剥夺)の概念を明らかにした。Bowlby は1969年にアタッチメント研究²⁾³⁾ を発表しており、これが愛着理論の土台となっている。当初アタッチメントはある特定の対象との間に形成される親密な情緒的絆を結ぶこととしてとらえられていた。アタッチメント理論では、授乳や食事よりも安心感や信頼が重要な要素であるとされ、アタッチメント行動は内因的生得的行動であるとしている。このことはアカゲザルの赤ちゃんが、ミルクを与えてくれるが針金でできた偽の母親よりも、ミルクをもらえない柔らかい布でできたダミーの母親を選んだという Harlow⁴⁾ の研究結果からも明らかである。Bowlby⁵⁾⁶⁾ によると、乳児は養育者との相互作用のなかで自身の内的ワーキングモデルが形成され、この内在化した表象は

永続性があり、その後も影響し続けるといわれている。養育者から受けたケアの質により、生後1歳までに愛着の内的ワーキングモデルが発達するとされており、そのモデルは外的世界を予測して行動を制御するシステムである。恐れや不安などの危機的状況や、病気や疲労などのストレス状態が子どものアタッチメント行動を生起させ、養育者から一貫して守ってもらえるという信頼感を得られるのである。

Bowlby と共にタビストックで研究に従事していた Ainsworth⁵⁾⁷⁾ は、アフリカで縦断的な観察研究を実施し、乳児が愛着対象である養育者を安全基地として探索行動を行うことを明らかにした。アタッチメントの形成には特定の養育者の応答性が有効であり、互換的な行動連鎖の規則性と情動の共有とが繰り返し体験されることが重要であることを示した。また Ainsworth はストレンジシチュエーション法(Strange Situation Procedure)⁸⁾ を開発し、アタッチメントパターンが「回避型」「安定型」「アンビバレント型(両価型)」の3つのタイプに分けられることを明らかにした。Ainsworth を中心とした研究グループは Bowlby の愛着理論を受け継ぎ、アタッチメントの発達心理学的な検証研究を遂行した。

アタッチメント行動の発達段階

Bowlby¹⁾ はアタッチメント理論のなかで、アタッチメント行動の発達について4段階に分けて説明している。
第1段階：識別のない段階での特定されないアタッチメント対象への定位・信号行動(生後3カ月ころまで)



第2段階：識別された特定のアタッチメント対象への
定位・信号行動(生後6カ月ころまで)

第3段階：識別された特定のアタッチメント対象への
近接・接近を維持する行動(生後6カ月～3歳ころま
で)

第4段階：行動目標の修正と協調性の形成(3歳ころ
以降)

「定位」とは、養育者の姿を目で追ったり、声を聞こう
としたりする行動であり、「信号」は、人に注意を向けて
泣く、微笑するなど合図する行動である。「接近」とは吸
う、しがみつく、後を追うなどの行動をいう。赤ちゃん
が生得的にもつこれらのアタッチメント行動は、母親の
関心を引きつけ、母親の養育行動を生起させる。本能的
な反応要素が養育者との相互作用をとおして統合されて
表現されるのである。

アタッチメントパターン

Ainsworth が開発したストレンジシチュエーション
法⁸⁾によるアタッチメントパターンは、生後1年の母子
の8つのエピソードからなる場面を実験的に観察するも
のである。母子が実験室に入室し2人でいるところに見
知らぬ人が入室する。次に、母親が退室し母子は分離さ
れた状態となる。子どもはしばらく見知らぬ人と2人き
りになり、母親が戻ってきて再会する。しばらくして再
び母親が退室し、子どもは1人きりになり、見知らぬ人
が戻った後に、最後に母親が戻ってくるという流れが一
連の方法である。このときの子どもの反応によってア
タッチメントのタイプを決定するものである。

Aタイプが「回避型」で母親との再会時に無視したり避
けたりし相互作用を求めないタイプ、Bタイプの「安定
型」は母親と再会したとき、接近や接触を求めて一緒に
遊ぼうとするか、あるいは離れたところから微笑み・手
を振る・話しかけるなどして相互作用を求めるタイプ、
Cタイプの「アンビバレント型(両価型)」は母親との分離
の後に再会したとき、母親に過度の関心を示し接近や接
触を求める一方で怒りや拒否を示すタイプである。三
宅⁹⁾は国内におけるアタッチメントパターンの研究を
実施したが、日本ではAタイプの「回避型」がみられな
かったという。その後、この3タイプだけでは子どものア
タッチメントの個人差を理解しきれていないのではないか
という見解があり、Ainsworth の弟子である Main¹⁰⁾によ

てもう一つの不安定な型に分類されるDタイプ「無秩
序・混乱型」が加わった。さらに細かなタイプに分けら
れることが報告されている。アタッチメントパターンに
関する研究は数多く報告されており、なかでも Sroufe
ら¹¹⁾は、1歳時のアタッチメントパターンによる違いが
のちの児の行動発達に影響を及ぼすことを明らかにした。

養育者の感受性とアダルトアタッチメント

Ainsworth ら¹²⁾はアタッチメントの個人差について検
討した研究で、養育者の感受性が子どものアタッチメン
トの形成に影響を及ぼすことを明らかにした。母親が子
どものシグナルに感度よく気づき、適切に解釈し、子ど
もに受容的で応答的である場合は、子どもの安定型愛着
を形成するという知見が得られた。Emde ら¹³⁾は母親
が子どもの情緒を的確に読みとり、適切に応答すること
を情緒的応答性と呼んだ。母親の情緒的応答性は子ども
の情動制御の発達やアタッチメントに影響を与えるとい
われている。

Main¹⁴⁾は子どもの母親自身のアタッチメントに着目
し、アダルトアタッチメントに関する研究により AAI
(Adult Attachment Interview)を開発しており、子ども
のアタッチメントパターンと親の AAI との関連を明ら
かにした。自身の親についての回想を中心とした面接法
で、内容の一貫性や想起しやすさなどを評定するもので
ある。それにより、精神分析の領域における縦断研究が
盛んになり、世代間伝達の検証やアダルトアタッチメン
トの個人差の特定などさまざまな成果をもたらした¹⁵⁾。
なかでも Fonagy¹⁶⁾は、AAI により得られた母親の内省
機能(reflective function)とアタッチメントパターンと
の間の関連を明らかにした。安定型愛着の母子では養育
者は子どもの心的状態を読みとることができ、子どもも
他者の主観的な心の状態を予測する能力を発達させると
いう。また、妊娠中の母親自身の愛着の表象は生後1年
の子どものアタッチメントパターンを予測することを
報告している¹⁷⁾。

養育者と乳幼児の相互作用

養育者と子どもの早期における相互作用の質がアタ
ッチメントの形成に影響することがわかっており、
Barnard¹⁸⁾は母子相互作用のシステムを養育者と乳幼児
の対話、あるいはワルツと呼んだ。ダンスパートナーと

のワルツのように流れるスムーズな会話をとおして、乳幼児は発達のために必要な質と量の刺激を受け取ることができるのである。Barnard の看護モデルは、養育者－乳幼児間の相互作用を円滑に進行させるために、双方が一定の責任を分担するという仮定のうえに成り立っている(図1)¹⁶⁾。乳幼児は養育者に明瞭なcueを送り反応し、養育者は乳幼児の不快な状態を軽減し、発達と学習の機会を提供しなければならない。双方の反応を通じて互いの行動を修正するのである。図中の矢印の中断(/)は相互的システムの破綻を表しており、さまざまな要因により相互作用の適合の過程を妨げる。養育者では乳幼児の行動に関する知識の欠如や病気、うつ、ストレスなどの危機的な条件下にある場合がその例としてあげられる。一方、乳幼児では早産・低出生体重児、母親の妊娠中の薬剤使用、乳幼児の健康障害などがあげられる。

このような親子の相互作用は、出生直後から毎日の授乳、おむつ交換、遊びなどの場面で繰り返されるものである。乳幼児期までの親子相互作用は、良好な親子関係や子どもの成長・発達の促進のために重要である。

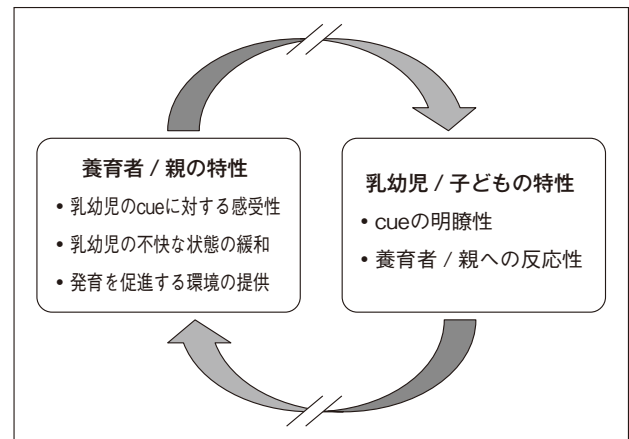
おわりに

親子のやりとりの繰り返しのなかで、養育者－乳幼児の相互作用が個々の親子関係やアタッチメントを形成させる。早期のアタッチメントによるのちの対人関係や脳の発達、パーソナリティの発達への影響について検討が進められており¹⁹⁾、臨床上のさまざまな、これらのことをふまえ、親子にかかわる機会を多くもつ看護師は、乳幼児の愛着を理解したうえで親子の支援のあり方を検討していくことが求められる。

【文 献】

- 1) 庄司順一, 奥山真紀子, 久保田まり・編著: アタッチメント: 子ども虐待・トラウマ・対象喪失・社会的養護をめぐる。明石書店, 東京, 2008, pp 26-32, 50-59.
- 2) Bowlby J: Attachment (Attachment and Loss: Vol 1). 2nd ed, Basic Books, New York, 1982, pp 177-376.
- 3) Bowlby J (黒田実郎, 大羽藁, 岡田洋子・訳): 母子関係の理論 I: 愛着行動。岩崎学術出版社, 東京, 1977, pp 215-421.
- 4) Harlow HF, Zimmermann RR: Affectional responses in the infant monkey; orphaned baby monkeys develop a strong and persistent attachment to inanimate surrogate mothers. Science 130(3373): 421-432, 1959.
- 5) Bowlby J (二本武・監訳): ボウルビィ 母と子のアタッチメント: 心の安全基地。医歯薬出版, 東京, 1993, pp 25-71.
- 6) 廣瀬たい子: 親子の関係性をつくる そしてはぐくむ。国際認定ラクテーション・コンサルタント研修会招聘講演, 2014.

図1 Barnard の看護モデル



〔Sumner G, Spietz A (廣瀬たい子・監訳): NCAST-AVENUW 養育者 / 親-子ども相互作用フィーディングマニュアル(日本語版). NCAST 研究会, 東京, 2008, pp 8-11. より引用〕

- 7) Bretherton I: The Origins of Attachment Theory; John Bowlby and Mary Ainsworth. Developmental Psychology 28(5): 759-775, 1992.
- 8) Ainsworth MDS, Blehar, MC, Waters E: Patterns of Attachment; A Psychological Study of the Strange Situation. Hillsdale, Erlbaum, 1978.
- 9) 三宅和夫, 陳省仁, 氏家達夫: 「個の理解」をめぐる発達研究。有斐閣, 東京, 2004, pp 82-93.
- 10) Hesse E, Main M: Disorganized infant, child, and adult attachment; collapse in behavioral and attentional strategies. J Am Psychoanal Assoc 48: 1097-1127, 2000.
- 11) Sroufe LA: Attachment classification from the perspective of infant-caregiver relationships and infant temperament. Child Dev 56(1): 1-14, 1985.
- 12) Ainsworth MD: Maternal Sensitivity Scales; The Baltimore Longitudinal Project. Johns Hopkins University, Baltimore, 1969.
- 13) Emde RN, Score JF (小此木啓吾・監訳): 乳幼児からの報酬: 情緒応答性と母親参照機能。乳幼児精神医学, 岩崎学術出版社, 東京, 1988, pp 35-48.
- 14) Main M: The organized categories of infant, child, and adult attachment; flexible vs. inflexible attention under attachment-related stress. J Am Psychoanal Assoc 48(4): 1055-1096, 2000.
- 15) 遠藤利彦: 内的作業モデルと愛着の世代間伝達。東京大学教育学部紀要 32: 203-220, 1993.
- 16) Fonagy P, Target M: Attachment and reflective function; their role in self-organization. Dev Psychopathol 9(4): 679-700, 1997.
- 17) Fonagy P, Steele H, Steele M: Maternal representations of attachment during pregnancy predict the organization of infant-mother attachment at one year of age. Child Dev 62(5): 891-905, 1991.
- 18) Sumner G, Spietz A (廣瀬たい子・監訳): NCAST-AVENUW 養育者 / 親-子ども相互作用フィーディングマニュアル(日本語版). NCAST 研究会, 東京, 2008, pp 8-11.
- 19) van Ijzendoorn MH, Goldberg S, Kroonenberg PM: The relative effects of maternal and child problems on the quality of attachment; a meta-analysis of attachment in clinical samples. Child Dev 63(4): 840-58, 1992.